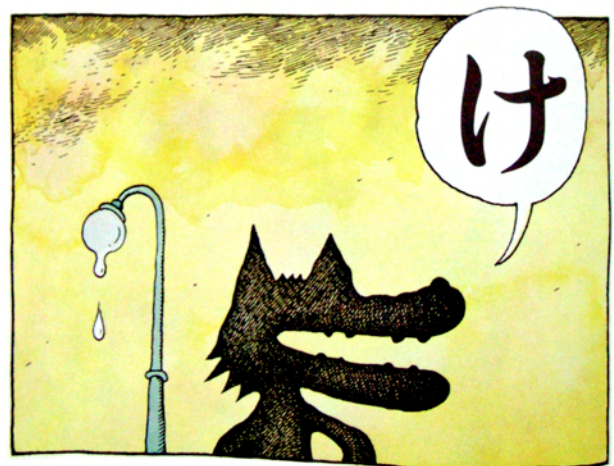


二節
絵本



「やっぱりおかみ」の涙する街灯

2.1 本節の目的

本節では絵本の分析を通して、色彩に着目したときに「無意識に記憶された景観」としての夜道を捉える。

(漫画は基本的に白黒であるのに対して、絵本は色彩豊かなカラーで描かれる事が多い。それ以外の点においては、絵本と漫画は完全に区別する事が困難である。絵本も漫画と同様に登場人物、景観（背景）、文字、が一体となってある意味をつくりだす。)

2.2 本節の構成

色彩に着目して、以下の二つの観点より分析を行う。

□絵全体の色調

絵の色を平均化し、それを色相、彩度、明度から分析する。

□絵の中での色の役割

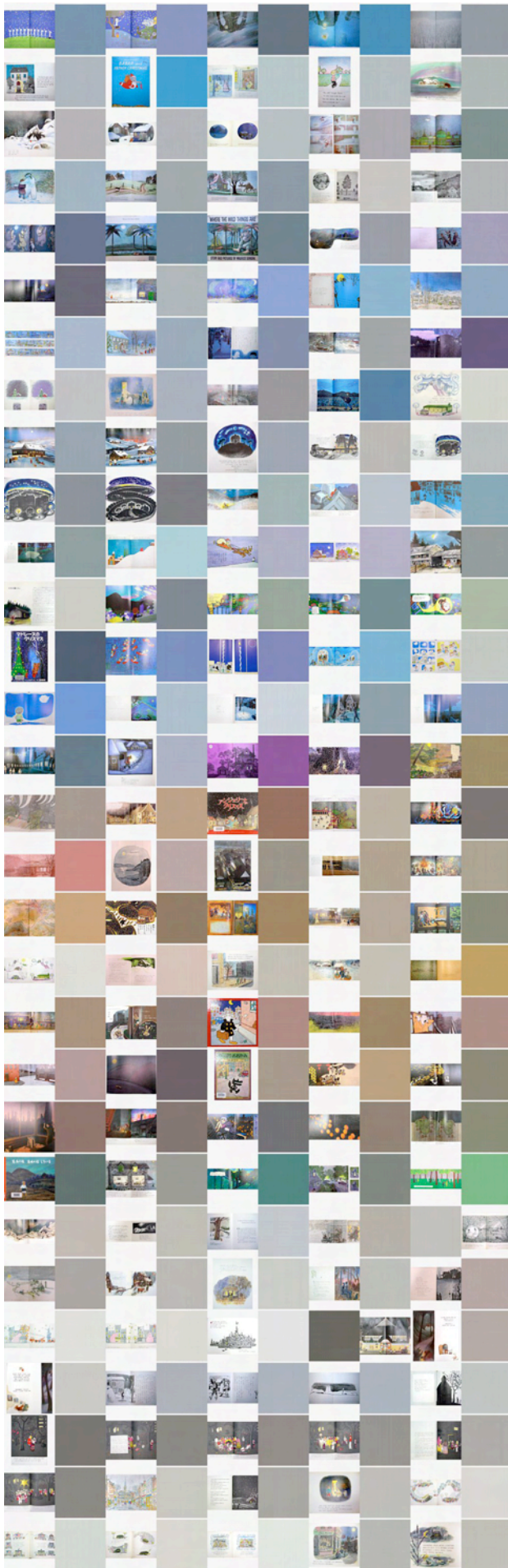
赤、黄、青、緑が絵の中でどのような使われ方をしているか分析を行う。

□まとめ

2.3 分析対象

全86冊の児童向けの絵本を網羅的に分析する。

分析した絵本の題名などについては、巻末の資料参照。



平均化の結果

2.4 絵全体の色調

2.4.1 目的

ここでは、夜道の絵が全体的にどのような色によって描かれているのかを把握することを目的とする。

2.4.2 方法

絵全体の色調を分析する為に以下のような方法を用いた

1. 絵本の中から夜道の絵を抜き出す



2. Adobe® Photoshop® CS2 のぼかしフィルタの平均化の機能（注2 参照）を用いてその絵の平均値を求める。

3. もとめた平均値を、色相－彩度、色相－明度、のグラフにプロットする。



4. グラフを分析し、必要に応じて元の絵を再度参照する。

色相：211°
彩度：33%
明度：64%

2.4.3 平均化の結果

左図が、平均化した結果である。

また、次ページのグラフがそれをプロットしたものである。このうち、彩度が5% 以下（A）のものは、実際にはほとんど色が無いのと同じであり、紙の色や、本の状態等ノイズに左右されるレベルである。彩度が5% 以下をカットした後のグラフを次々ページより示す。

注2：ぼかしフィルタ：平均

画像全体または選択範囲から、その範囲の平均値のカラーを探し、画像全体または選択範囲をそのカラーで塗りつぶすことによって滑らかな効果を与えます。例えば、草の領域を選択して平均フィルタを適用すると、その領域全体が一律な緑色に変わります。（Adobe® Photoshop® CS2 のヘルプより抜粋）

2.4.4 色相—彩度の分析

□全体を見て

ほとんどの絵が、色相が 0 ～ 60 の赤から橙にかけての色 (B) と、190 ～ 230 のシアンから青にかけての色 (C) の二つに分類できる。いずれも、彩度が 10% 以上でよりその傾向が強くなっている。

つまり、夜道の絵では、緑、マゼンダ、紫 が主要な色になる事がほとんど無いと言える。

また、それぞれの絵を個別に見ると、いずれにおいても主要な色のみならず、植物や外壁等でも鮮やかな緑が用いられる事は少ない。

□A群の絵

A群の絵は、個別に見ると、白黒で描かれた絵や、ほとんど彩色されていない絵が多かった。

その中で、空が白く塗られているかわりに、建物や、人などが黒く塗る事で夜を表象しているものがあつた。

□B群の絵

個別に元の絵見ると以下のような条件の組み合わせによって、赤っぽい色になっていた。

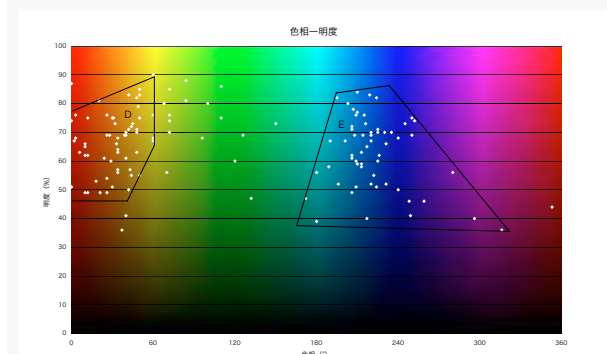
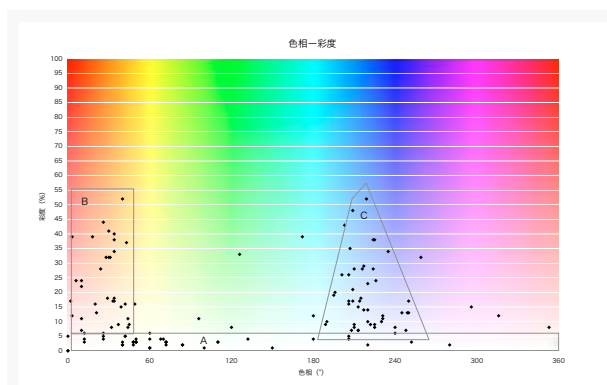
- 1 空や建物、地面などが黒で表現されている
- 2 建物の外壁が暖色で描かれている
- 3 赤と白の二色で表現されている
- 5 絵全体が赤、黄系統の色で描かれている

暖色と黒の組み合わせによるものが多く見られた。空が黒いのが一般的であるが、建物などが黒い場合も見受けられた。さらに、以下のような特徴も見られた。

- ・ 絵全体が赤、黄系統で描かれている絵は月夜の明るさを表現している。



月夜の明るさが暖色で描かれている事例



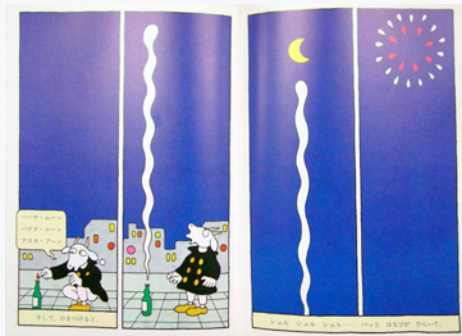
白い空と黒い壁の事例



暖色と黒の組み合わせによる事例



絵全体が青く描かれた事例



青い空が主題になっている事例



雪景色が描かれている事例

□ C 群の絵

個別に元の絵を見ていくと、以下のような特徴が見受けられた。

- 1 絵全体が青系統の色で表現されている
- 2 絵の中で青い空が閉める面積が広く、主題として描かれている
- 3 雪景色

その中でも1. 絵全体が青く塗られたもの、が非常に多く見られた。これについては、3.5 で詳しく述べる。

□ まとめ

夜を表象した絵に以下の特徴がある事がわかった。

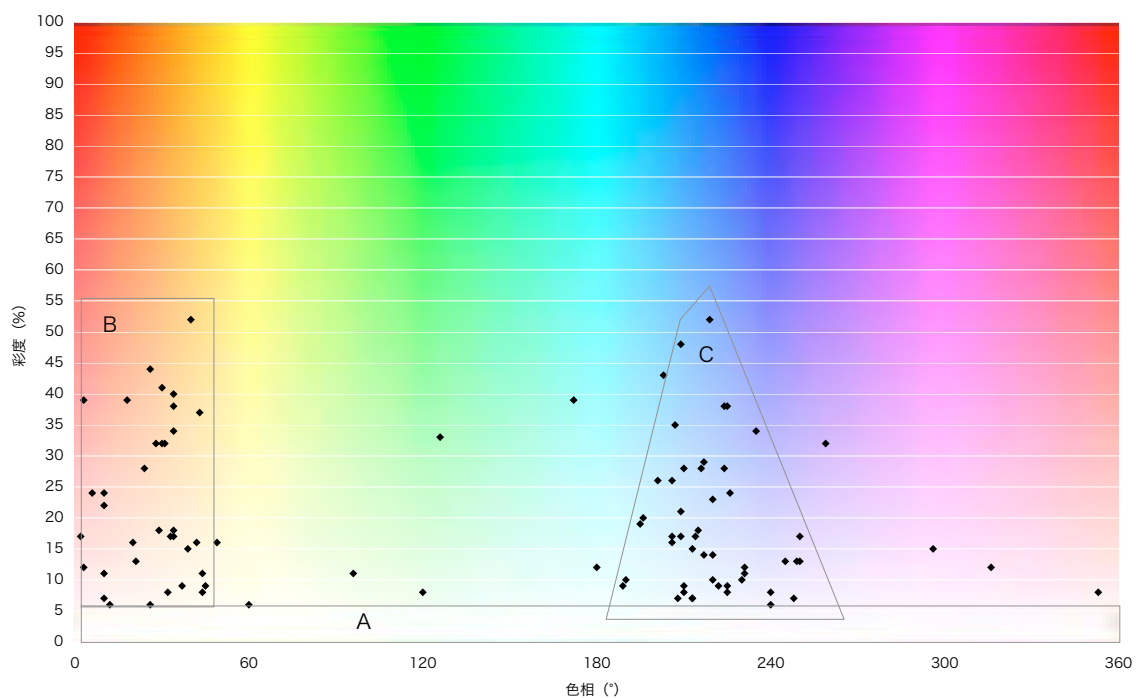
- ・画面全体が青系統の色で描かれた絵（C 群）
- ・暖色と黒の組みあわせで出がかった絵（B 群）

の二種類に大きくわける事ができる。

画面全体を青系統で描く場合は、画面は必然的に青っぽくなる。これに対して、空が黒く塗られる場合には、空以外の部分が比較的自由な色で描かれている。

しかし、いずれの場合でも緑はあまり用いられていない。

色相－彩度（彩度5%以下カット）



2.4.5. 色相一明度の分析

□全体を見て

明度が高いときには、色相の間にバラつきが大きいように見える。しかし、実際にはこれらの絵は、彩度が低い為無視することができる。

彩度が 5% 以下のデータをカットした次ページのグラフをみると、D 群と E 群に大きくわける事ができる。

□D群の絵

赤っぽい色の絵は、明度に変化しても色相のバラつきがあまり変化する事はない。

□E群の絵

青っぽい色は、明度が高いとバラつきが少なくなりシアンと青の間になる。そして、明度が下がると、バラつきの幅が広がり、マゼンダやシアンなども見受けられるようになる。

これは、明度の低さと青っぽさという二つの方法が相補する事で夜らしさを表象しているからである。

明度が低くなれば、絵が青っぽくなくとも、夜らしさは表象可能であり、逆に絵が青っぽければ明度が高くとも夜らしさが表象されるからだと言える。

□まとめ

赤っぽい絵は明るさに関わらず似たような赤さである。

空が青い時、絵全体の青さと、明度の低さは相補する事で夜らしさを表象する。

画面の青っぽさ+明度の低さ→夜らしさ



明度の低さで夜らしさを表象している事例



青っぽさで夜らしさを表象している事例

2.4.6 まとめ

色相、彩度、明度、による夜らしさの表象をまとめる。

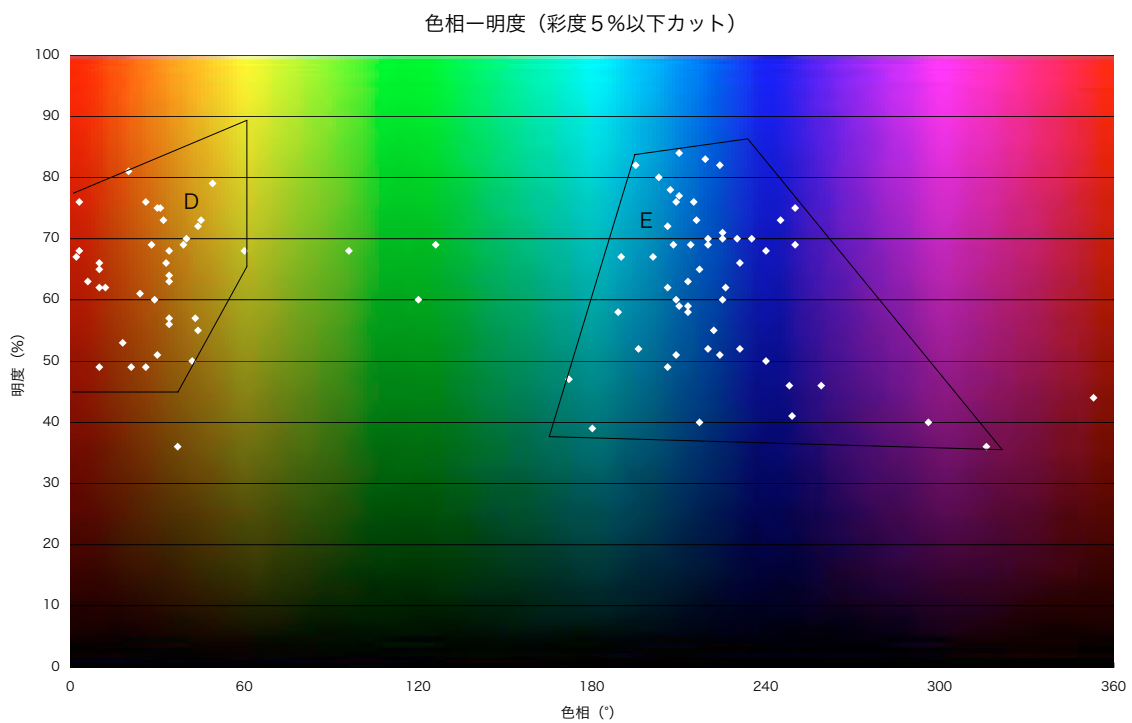
□絵全体の色調から、彩度が低い絵、赤っぽい絵、青っぽい絵の三種類に分類できる。

□彩度が低い絵では、空が白く、建物や人が黒いシルエットとして描かれているタイプのものがある。

□赤っぽい絵は、黒と暖色との組み合わせによるものが多く見られる。

□青っぽい絵では、絵全体の青さと明度の低さは相補的に夜らしさを表象する。

□鮮やかな緑は夜の絵の中では特別な目的がある時以外は用いられない。これは、緑が昼のアイコンである為であると考えられる。



2.5 絵の中での色の役割

2.5.1 目的

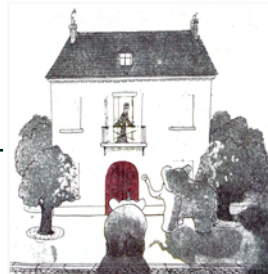
夜道の絵の中で、色がどのような役割を持っているかを発見する事がここでの目的である。

2.5.2 方法

- 1 夜道の絵の中で、色を赤、黄、青ごとに取り出す。
- 2 それぞれの色が絵の中でどのような意味を持っているか分析する。



元の絵



赤



黄



青



2.5.3 赤

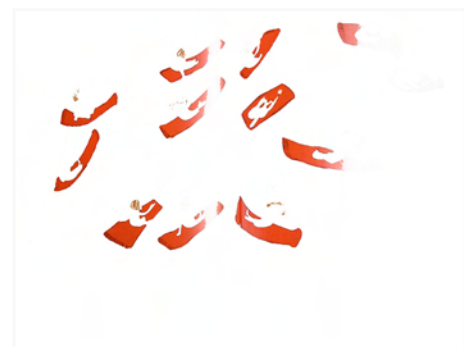
絵本の夜の絵で、赤は、登場人物が着ている服や絨毯、レンガや木など建物の外壁、瓦の屋根に用いられる。これらの絵を見ていると、以下のような意味を持って用いられている事がわかった。

■暖かさの表象

例えば、「snowman」で、雪だるまと歩く少年の着るガウンは、赤色である。



あるいは、「マドレーヌのクリスマス」で、雪が降る中、子供達が散歩する時の服や、夜寝静まったあとに子供達が乗る空を飛ぶ絨毯も赤い。



「ぼくはおばけのおにいちゃん」の我が家も赤い屋根である。



夜道の中で、赤は暖かさを表象する。

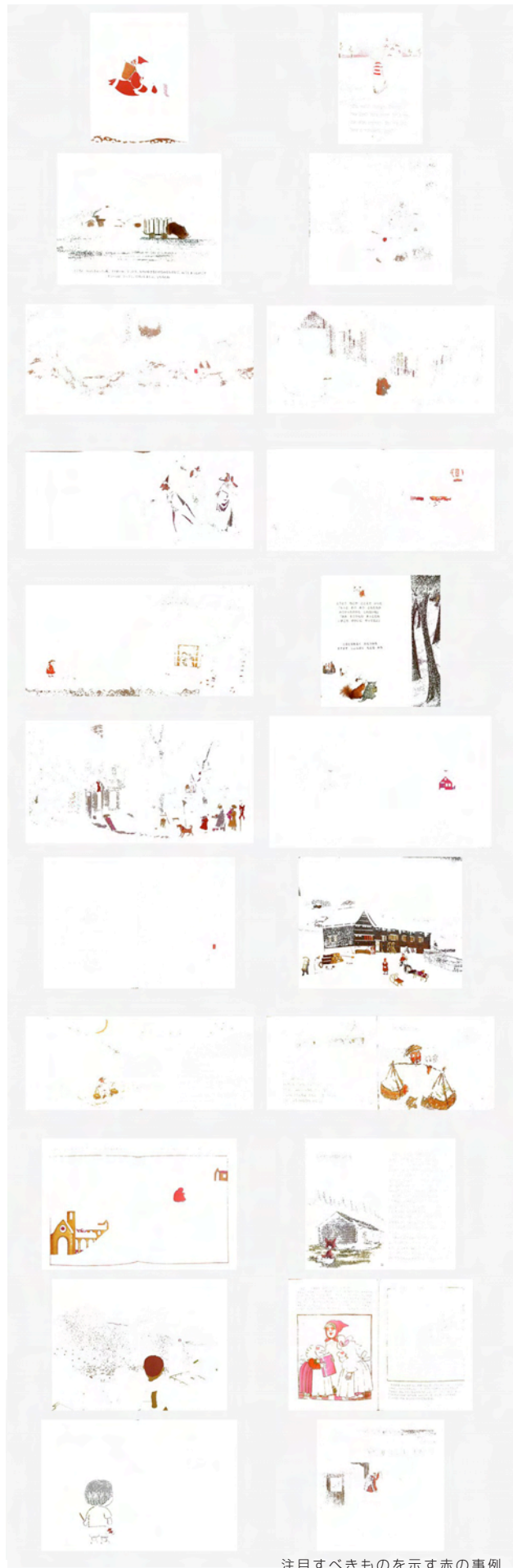
■目印

漫画ほど記号化されていない絵本では一つの絵の中に様々な事が書き込まれる。そうした時に読者が、そのとき話の中心になっている、モノ(家、人)がどこにあるかを見失ってしまわないように、それが赤で塗られていることがある。このような時、赤く塗られているものは画面の中でそこだけである場合が多い。

これは、「It's snowing」の中の一つの場面である。山の中に小さな家が描かれている。その家を読者が見落としてしまわないよう、ドアが赤く塗られている。



これは「おねえさんになるひ」からの一場面である。新しく妹が生まれ、家の外で一人寂しく女の子が泣いている。窓の中の家族と対比させらるよう、目立つように女の子が赤で描かれていると考えられる。



注目すべきものを示す赤の事例



■華やかさの象徴として

絵の中に赤い色が散らばっているとき、それは華やかさを表象する。これは、先に述べた目印としての赤とは対照的な用いられ方であるが、これはこの絵そのものに目印をつけているのだと考えることができる。



■火の表象

火もまた、赤によって描かれている。火のすべてというわけではなく、火の輪郭が赤で描かれている。



■クリスマスの表象

コカ・コーラ社が赤をサンタクロースの色として定着させた事の影響が大きい。クリスマス関係の絵本で赤が夜道と共に登場する頻度は高い。



■審美的な観点から

単に審美的な観点から赤が用いられる事ももちろんある。

赤は、絵本の中では実に多様な意味から用いられている事がわかった。

2.5.4 黄

赤が多様な意味を持っていたのとは違い、夜道において黄色が持つ意味はそれほど多くなく、ほとんど一つである事がわかった。

黄色は、光りそのものを表象する。

黄色は、月や星、明るい部屋、提灯、街灯の明かり、様々なものに使われるが、それは、そのものをあらわすのではなく、そのものが発する光なのである。

「おぼけのバーバパパ」で黄色く描かれた光。



光りそのものを表象する事から、発光するものは別の色で描かれており、その周りに黄色が描かれているような使われ方をされているものが見られた。

「小さな家」で黄色く描かれた、遠い街の灯りと、街灯の周りの灯り。



光そのものを表象する黄の事例（1）



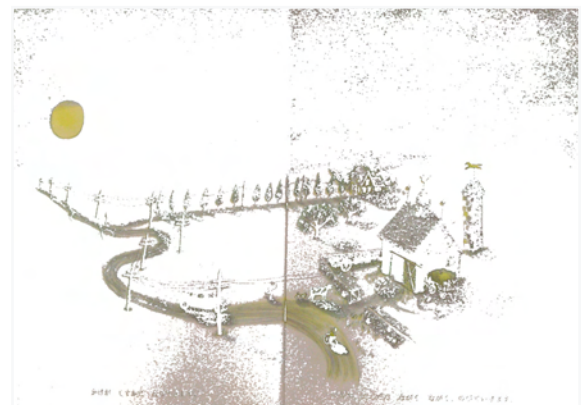
光そのものを表象する黄の事例（2）

人工的な灯りの他に、星や月など、自然の灯りも黄色く描かれる。

「11ひきのねことへんなねこ」の中で黄色く空に描かれた星。

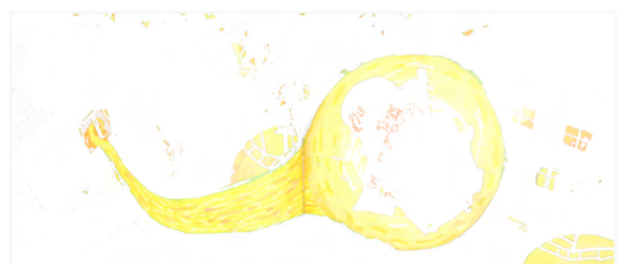


「あ、おちてくるふってくる」の中で、月とその月に照らし出された道が黄色く描かれている。



幽霊などが発する超自然的な光りもまた、黄色で描かれる。

「ぼくはおばけのおにいちゃん」の中で、幽霊と少年を取り巻く光り。



2.5.5 青

私達は、昼間の良く晴れた日を、青空と呼ぶが、絵本の中では夜の空も青い事が多い。しかし、ただ青いだけの空では、読者はそれが昼であるのか夜であるのか、見分ける事ができなくなってしまう。

そこで、絵本では2つの方法を用いて、ただの青空を夜空にしている。

その方法について以下に示す。

■青空に浮かぶ星と月

空以外の部分が昼と変わらないように描写をされていたとしても、青空に、白い点や、少し大きな白い丸が浮かんだ途端それは夜空になる。

星と月は、青空を夜空に変える。

星と月はどんな空をも夜空に変えてしまうアイコンなのである。

日本の絵本ではあまり見られないが、日本以外の絵本の中には、ある特定の星を強調するような表現が見られた。

日本の絵本に登場する星は、どれもおなじように描かれている。それらが、クリスマスに関する絵本に多いことから、宗教的なものだと考えられる。

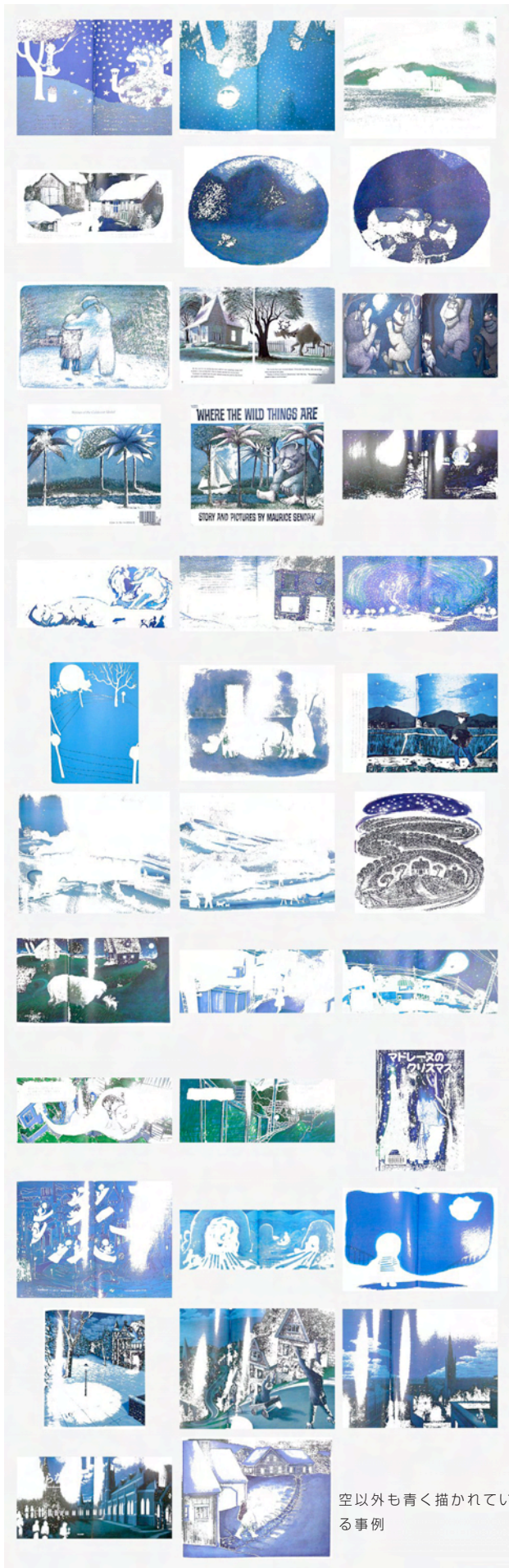
ある特定の星



「ムッシュ・ムニエルごしょうかいします」で記号的に描かれた三日月。



青空が星や月によって夜空を表象している事例



空以外も青く描かれている事例

■空以外も青い

空以外の道、建物、外壁、塀、木、人、等々々々なものが青く塗られることでも青空は夜の空に変わる。

照度が低くなると、人の目の構造的な特徴から、ものの色彩が失われて青のトーンで見えることが知られている。青いスクリーンが目の前に置かれているような表現によって、ものが見えにくい薄暗い状態をつくりだしているのである。

この青さとは、ある特定のモノの青さではなく、光りの無さの表象なのである。(光りを表象する黄色と暗さを表象する青が互いに補色の関係にあるのは偶然ではないだろう。)

万遍なく青が塗られたときには、前述した星や月が描かれていなくても、それは青空ではなく夜空になる。

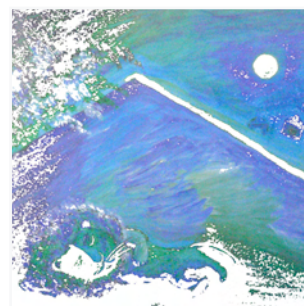
通常青く無いものにも青が満遍なく塗られているとそれは夜を表象するのである。



「ねずみのとうさんアナトール」



「ウルスリのすず」



「空飛ぶライオン」



「けんたのけんか」

2.6 まとめ

■空の描かれ方

絵本にとって空の描かれ方が重要であった。

空の描かれ方から整理する。

□白い空

白い空では、建物の外壁や人、植物などが黒くシルエット的に描かれる事で夜を表象する。

□黒い空

黒い空はそれだけで夜を十分に表象する。

黒い空は暖色系の色と組み合わせて描かれる事が多い。

□青い空

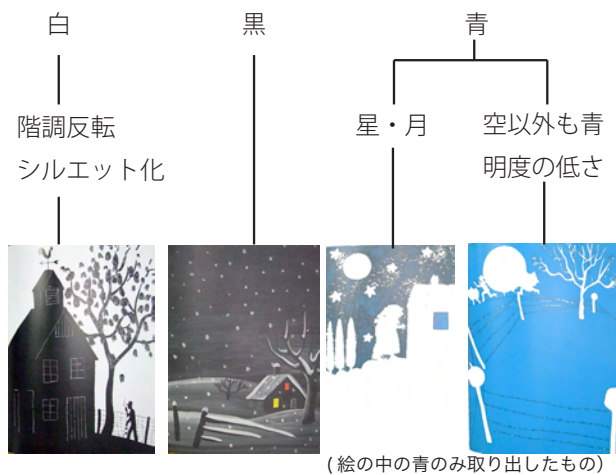
青い空は昼の空と混同されてしまいやすいので、それを避ける為、以下のような操作を経て夜を表象する。

1月や星など、それだけで夜とわかる記号が空に描かれる。

2絵全体が青く描かれる

また、絵全体が青く描かれているとき、青さと、明度の低さが相補的な働きをする。

空の色から見た夜の表現の分類



■色が表象するもの

□赤

暖かさ

目印

華やかさ

火

クリスマス

□黄

光りそのもの

□青

上記の空の項で記した通り、青くないものが青いと夜を表象する。

□緑

鮮やかな緑は昼のアイコンである為、夜の絵の中では特別な目的がある時以外は用いられない。

■窓が、赤と黄色の交互で描かれている

家や建物の窓が赤と黄色の交互で描かれている事例が多く見られた。これは、上記した色が表象するものから考えると、次のような解釈になる。

つまり、部屋の中の明るさ(光り) を黄色で、暖かさを赤で、表象しているのである。



ちなみに上の事例で、鮮やかな緑が用いられているのは、夜でありながら昼間のように賑やかなパーティを表象するためである。



